

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000808		
法人名	(有)優春		
事業所名	グループホーム くれよん		
所在地	小樽市長橋5丁目13番4号		
自己評価作成日	令和2年1月27日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000808-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和2年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者1人1人に合わせた個性あるケアに取り組んでいる。日々の暮らしの中でも生活しながらリハビリすることに力を入れ、入居者様の持っている力を最大限に発揮できるように支援しています。職員1人1人が、入居者様1人1人を理解できるよう毎日の関わり方を大切にしています。地域の皆様にも自然に溶け込み、楽しく明るく暮らす為、職員の思いがバラバラにならないように、入居者様 職員のコミュニケーションを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者は地元高齢者福祉ニーズに応え、グループホームくれよんを開設し15年目を迎えています。近隣に系列のグループホームと小規模多機能事業所も開設し、常に3事業所が連携した協力体制を築き、より良いサービスの提供を追求しています。特に、地域密着型事業所として法人の地道な取り組みが結実しており、毎年恒例の地域合同運動会や事業所主催の夏祭りが長年に亘り継続出来ているのも町内会組織や各ボランティアの人々の温かい支援が得られての事で、相互交流の下に着実に絆が深まっています。職員は法人理念や目標をケアの根幹とし、利用者の有する力を活かしながら、その人らしく暮らし続けるために様々な外出支援やレクリエーション活動、家事にも積極的に参加してもらうなど、身体機能低下防止に繋げた自立支援に取り組んでいます。一人ひとりに合わせた個性の介護計画の基に、リハビリバランツから布下着になり排泄が自立し、介護度が軽くなるなど、職員は利用者と共に過ごし支え合う関係性を築く中で、職員自身が介護の奥深さを実感している様子が窺えます。在宅生活の延長線にある事を念頭に、毎日が楽しく笑いの絶えないアットホームな事業所を根ざしています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
		2 利用者の2/3くらいが			2 家族の2/3くらいと
		3 利用者の1/3くらいが			3 家族の1/3くらいと
		4 ほとんどつかんでいない			4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
		2 数日に1回程度ある			2 数日に1回程度
		3 たまにある			3 たまに
		4 ほとんどない			4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
		2 利用者の2/3くらいが			2 少しずつ増えている
		3 利用者の1/3くらいが			3 あまり増えていない
		4 ほとんどいない			4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
		2 利用者の2/3くらいが			2 職員の2/3くらいが
		3 利用者の1/3くらいが			3 職員の1/3くらいが
		4 ほとんどいない			4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
		2 利用者の2/3くらいが			2 利用者の2/3くらいが
		3 利用者の1/3くらいが			3 利用者の1/3くらいが
		4 ほとんどいない			4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
		2 利用者の2/3くらいが			2 家族等の2/3くらいが
		3 利用者の1/3くらいが			3 家族等の1/3くらいが
		4 ほとんどいない			4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が			
		2 利用者の2/3くらいが			
		3 利用者の1/3くらいが			
		4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、利用者とかかわりの中で常に理念を重い浮かべながら、理解と協力が得られるよう、務めている。月一回のミーティングでは理念について話し合い、また、各ユニット毎に目標を立て実践している	法人理念を根幹とし、毎年ユニット毎の目標を掲げてサービスのあり方を示していますが、今年の法人新年会では新たに3事業所共通の目標も作成し、法人の全職員が互いに切磋琢磨して、ケアへの向上心を常に持てる様に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園や地域の会館の清掃時には入居者と一緒に参加し交流を深めている。行事では町内を巻き込み地域との交流も図っている。中学生が課外活動として訪問し、一緒に歌を歌ったりと交流も増えた	毎年恒例の地域合同運動会や法人主催の夏祭りは住民参画の形を作って展開しており、地域の季節行事として定着しています。中学生や地域ボランティアの訪問で演奏や合唱を楽しみ、近所の人が花や野菜の手入れに寄ってくれる等、日常的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域には高齢者が多い為、代表者が町内の役員に選ばれたり、運営推進会議では町内民生委員も協力してくれているので、ホームの現状を報告し協力体制の強化に努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況や行事の結果報告や反省点などを報告し、次回に向けての要望や助言を含め評価して頂き、サービスの向上に活かしている	年4回開催の運営推進会議の日程を事業所行事と合わせる事で、多くの家族の参加を得ています。行事の取り組みや利用者状況、職員の異動など運営に関して報告し、参加者からの意見、提案をサービスに反映しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点があれば介護保険課に相談連絡し助言をもらっている。他機関の相談・助言も受けるようにしている。	利用者に課題が発生した場合は、担当窓口にお問い合わせしています。実地指導の際には、指導や提案を受け、運営に活かしています。集団指導や認定更新時でも情報や意見が得られ、連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し内容を全職員で共有し話し合い、身体拘束になっているサービスがないか確認している。又、サービスを実施する際には、拘束につながらないかを考えながら実施している。玄関の施錠は夜間のみとしている。	事業所は外部研修後の伝達研修や内部研修にて、身体拘束の弊害について学びを深め、周知徹底を図り、声掛けや対応が拘束に繋がっていないかなど職員同士が話し合い、具体的に確認しています。玄関は夜間のみ施錠しています。指針作成、委員会の設置、開催は運営推進会議の中で開催しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等適正化が義務付けられ、外部研修への参加や、ミーティングでの勉強会を強化している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、管理者が研修受講しましたが、職員全体への把握にはまだ繋がっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、料金・内容の変更時には再契約、リスク・事故対応を分かりやすく説明し、理解・納得した上で同意を得るようにしている。退居、契約解除に至るまで、分かりやすく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動から、その思いを察する努力をし利用者本位の運営を心掛けている。又、家族アンケートを実施し、頂いた意見はミーティング等で話し合い運営に反映させている。	事業所行事や運営推進会議には多くの家族が参加しており、事業所の様子を直に感じてもらいながら、利用者への想いや要望を聞き取っています。年1回の家族アンケートでも忌憚りの無い意見を得て、運営に反映させています。遠方の家族には「くれよん便り」に加え担当者からの個別の便りで利用者の暮らしぶりを伝え、緊急時には随時電話で状況を報告しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングで意見・提案など聞く機会を作っている。職員個人面談を行い、要望や意見を聞き、運営に活かしている。	職員同士の関わりは良好で、連携が図られています。管理者は、申し送り時や全体会議、ユニット会議の場を活かし、職員の意見や要望、提案など汲み取り、運営に反映させています。個人面談や新年会などの宴席でも、コミュニケーションを図り、日頃の想いを引き出し、職場環境の整備に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態を把握し、勤務時間や条件の整備など柔軟に対応している。各自がやりがいをもちながら働けるよう良い職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修会や勉強会に参加できるようシフトの調整を行い、ケアに対する質の向上に努めている。利用者介護中の対応や身体介護で基本を基にできているか、その場で助言や指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム連絡協議会主催の研修会や他ホームとの相互研修を行い情報交換を行い、サービスに活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人家族からの要望や不安、困っていることを話し合ったり、入所前にホームを見学していただき、安心して入居できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況をよく話し合い、今何が困っているか今までのサービス状況も踏まえて話を聞き、その上でどのようなサービスができるかを話し合い、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の相談を受けるようにしている。そのうえで入居が必要と判断した入居者さんに対し、随時見学するなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な関係を築きながら、尊敬の気持ちを持ち、出来ること出来ないことをお互いに協力し合い、感謝の気持ちを常に感じながら支えあっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望により、職員に迷惑がかかると遠慮されるご家族の方には、後の事は職員の対応で落ち着くので、面会を多くしてもらうよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行ってみたいところや思い出の場所があれば、外出や行事に組み入れ対応している。又、学校の教え子が面会に来たり、ご家族の家に外泊したりしている。	元の職場や懐かしい場所などへは、レクリエーション活動の中に組み入れて訪問しています。馴染みの病院にも同行支援しています。教え子や宗教の仲間の訪問を受けて親交を深め、家族とは外食や外泊を楽しんでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように常に目配り・気配りし、利用者間のトラブルを避け、職員が仲を取り持ちながら、ランプや歌で共有の時間が過ごせるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も行事への誘いや、くれよん通信を送ったりと関係を断ち切れないように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がどのような生活を望んでいるのかを日々の関わりの中で把握するよう努めている。困難と思われるときは家族と相談し、本人の思いに添った支援をしている。	殆どの利用者は言葉で意思を伝える事が出来るため、声掛けに対する反応から思いを推し量り、意向に添った支援に努めています。発語が困難な場合は、目での訴えや些細な表情の変化も見逃さず、想いの把握に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族から生活の様子、趣味などを聞き暮らしのシートに記録して残し、これを元に安心して生活が送れるよう支援している。入居後も本人やご家族が来訪されたときに少しずつ把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックにて健康管理に努め、1日の暮らし方を理解すると共に、食事や排せつの時間、生活習慣などその人らしい生活が送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活での気付きや変化を毎日の申し送りでのカンファレンスやモニタリングでの課題となることをスタッフ、家族と相談し、3ヶ月ごとに介護計画の見直しと作成を行っている。	職員はより良いケアのためのモニタリングを丁寧に行い、ユニット会議で課題について話し合い、計画の素案を導き出しています。担当職員、介護支援専門員、管理者が中心となり、現状に即した介護計画を作成し、定期見直しは3ヵ月毎に行い、緊急時は随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し、日常の職員の気付きや状態の変化まで毎日申し送りで話し合い、常に情報を共有しながらケアプランの評価や立案に活かしている。又期間内に変化が生じた場合には実情に応じたプランの見直しを行い柔軟に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時のニーズや変化に柔軟に対応し、本人・ご家族の要望を常に聞き入れ職員同士で話し合い多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力のもと消防訓練、家族、友人、ボランティア関係の方の参加の夏祭りや運動会を行い安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に沿った、かかりつけ医の受診をしたり、複数の医療機関と連携を取り支援している。	利用者の9割が協力医の2週に1回の往診を受けています。入居前からのかかりつけ医や専門医への受診は介護支援専門員や看護師が同行し、受診結果は記録に残し、家族に報告しています。主治医と看護師職員は連携を図り、利用者の健康を管理しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変に気付いた時はホームの看護師に報告し主治医との連絡を取りながら適切な受診通院をいつでも行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、ADLの低下を最小限にするため、早期退院に向けて密に情報交換している。病院からホームへ戻ってからの生活もスムーズに行えるように病院関係者と相談しながら連携を図っている。ご家族の思いを共有し安心して最後を迎えられるよう対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	本人の思いを尊重し、終末期に対する方針を十分話し合ったうえで、ご家族、医師、看護師と連携を取り指示を仰ぎ支援に取り組んでいる。ホームで出来る対応についてご家族に説明し、メリットやリスクについても説明している。	重度化や看取りに係わる指針を明示し、契約時に同意を得ています。重度化に向かいつつある場合は、その都度、家族、医師、看護師を交えて話し合い、改めて看取り同意書を作成し、方針を共有しています。事業所は看取り介護体制を構築し、本人、家族の希望に沿える様なケアの幅、質の向上に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の全体ミーティング時に急変・事故発生時のマニュアルの確認・勉強するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1日にホームの避難訓練を行い実際の火災に備えて訓練を行う他、年2回の消防との避難訓練を地域の方々とも協力しながら行っている。災害に備えて飲食物、発電機等の備品の備えをしている。	月に1度、定期的に避難訓練を計画し、その内2回、昼・夜想定火災避難訓練を消防署指導の下に、地域住民の参加を得て実施しています。自然災害マニュアルを作成し、自主訓練では、土砂崩れの水害訓練も行っています。災害用備蓄品も確保しています。	訓練の参加者名、訓練後の検討課題や対応策、消防署の指導内容等、詳細に記録し、次への訓練に活かされる事を期待します。また、水害以外にも様々な災害を想定して、迅速かつ集中的に救出できる策を構築する事を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや接し方に気を付けプライドを傷つけないように対応している。特に入浴やトイレ介助時には誘導の仕方や羞恥心に配慮し人格の尊厳に努めている。	職員は接遇研修を受け、プライバシー保護の観点からも、入浴やトイレでの声掛けや対応に注意を払っています。自立を促す引き算の介護に努め、出来ない部分を支援する等、誇りを尊重した介護に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いが表出しやすいよう声掛けや、選択しやすいような場面作りをし、答えを急がず自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1人1人の生活リズムを観察し、その人らしく過ごせるよう個別性を大切にし、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	四季や好みに合わせ服装と化粧品に気を付け、おしゃれが出来るよう支援している。起床時には、自分で服装を選んでる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、調理、味付け、盛り付けを職員と共にやり、片付けも行い達成感を感じて頂く。利用者に合わせて味付けを変え提供している	調理専門職員を配置し、手元にある食材も活用しながら、利用者の嗜好や天候も考慮して毎日献立を立てています。ミキサー食や刻み食にも対応しています。誕生日や行事食では手作りの温かさを大切に工夫し、寿司蕎麦セットや海鮮丼の出勤前、外食も取り入れて食欲を高める支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限のある利用者もいるため水分量が確保できるよう、水分表を使用している。利用者の状況に合わせて食材の大きさや硬さを考えながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの見守りを行い、不足部分の介助も行っている。痛みや以上のある時は速やかに歯科医師に連絡し対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表を使用する事により1人1人のパターンを把握し失禁がなくなるよう個別にトイレ誘導や声掛けしトイレでの排泄を支援している。特別な理由がないときはオムツを使用せず下着で過ごせるよう取り組んでいる。	オムツ使用を減らし、可能な限りトイレでの排泄支援に取り組んでいます。自立している利用者や下着着用の利用者も多く、快適な排泄を続けています。入居後にリハビリパンツから布下着になり、排泄が自立したケースもあり、個別に対策を検討しています。職員が終始手を添えたり声をかけるのではなく、本人の出来るところを見極め排泄の自立を支えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分摂取量に気を付け支援している。なるべく下剤に頼らないよう運動をしたり自然排便に繋がるよう支援している。腹圧や肛門マッサージなど個別の対応を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合った支援をしている	基本的には夜間浴としているが、曜日、時間帯は本人の希望に添った入浴を心掛けている。その時の体調によっては無理をせず清拭や足浴をしている。なるべく同性介助で入浴してもらう。	利用者の在宅生活時の習慣を尊重し、夕食後の入浴を支援しています。毎日湯を張っており、週2回を目安に、二人介助や希望に応じて同性介助も取り入れています。湯船にゆったり浸かりながら、世間話に花を咲かせ、湯上りには冷たい飲物の用意など寛ぎの時間を工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、その時の状況と体調を観察し、ゆったりとした時間を過ごしながら日中はなるべく体を動かし、夜間は入眠時間を把握し、音・光・温度に配慮し安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬情に目を通し、副作用や変更があった場合には申し送りや日誌・連絡ノートに記載し日々注意点を確認している。気になることがあるときは随時主治医に相談し支持を貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の持っている力を最大限に活かし、張り合い、やりがいを持って観望し、マンネリ化しない様支援している。趣味・特技を生活の中に取り入れ、やりがいを持って楽しく過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や家族からの情報をもとに散歩や近隣への外出、外食、イベントへの参加等、支援している。利用者の要望・希望に合わせて外出するようにしている。	季節に応じた外出を企画し、桜見物や紅葉狩り、道の駅など、ドライブを楽しんでいます。合同夏祭りや大運動会の行事、外食、散歩、買い物、花や野菜の手入れなど、外に出かける事を当たり前の事とする支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事の夏祭りでは個人に1000円(優春から提供)持参してもらい、あらかじめ出店のボランティアの方々には話をしている為、利用者には買い物を思い出ししていただく工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙を書く利用者がいないため手紙のやりとりはしていないが、用事のある利用者にはご家族に電話し、やりとりをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローア、居室は常に整理整頓し色・光・音・湿度にも注意し、混乱や不潔につながらないように配慮している。また季節感を出すために居室の入り口には飾り付けをしている。花をプランターに入れて飾っており、くつろげ居心地よく過ごせるようにしている。	全体的に家庭的な温もりが感じられる空間で、台所は対面式で、食事の支度の音や匂いが伝わり易く、心地よい生活感があります。冬の湿度には特に気を配り、廊下のポールには大判タオルが常に干されています。観葉植物や季節の雛人形、絵画、書など飾り、利用者の憩いの場となっています。2階には多目的室も用意されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やフローアでは利用者同士がゆったりと出来る長椅子を置いたり、それぞれの居場所を確保できようとしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人家族と相談の上話し合い、使い慣れた物、馴染みの物を持って来てもらい、配置を考え落ち着いた生活できるようにしている。外出時に本人が買い物した物や、お気に入りの物を居室に飾っている。	目印となる表札は手作りで、季節に合わせて飾りを変えるなど、職員の想いが伝わります。居室には、クローゼットとボールが設置され、洗濯物を干す事で湿度を保ち、乾いた衣類の整理など、在宅生活の延長を感じさせています。居室には、馴染みの家具や調度品を持ち込み、自分の居場所を作り上げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理ではホットプレートを使用し、食卓テーブルで行っている。ホール・トイレ・浴室等には自由に安全に過ごせるように手摺が豊富についている。		